

Case 8

家具メーカーと学生のコラボレーション
“しまう”をテーマに新規家具を提案

Step 1



システム収納家具メーカーのマノーネは、市場において新たな価値を創造するために、常日頃から新商品開発を推進していますが、社外からのアイデアも取り込みたいと考えていました。そこで、大学生による新しい家具のアイデア提案プロジェクトを実施しました。



大学にて説明会

Step 2



プロジェクトには、住居学科の有志が参加しました。マノーネの工場およびショールームを見学し、収納家具に対する理解を深めたうえで、夏休みをはさんで約2か月をかけて提案を練り上げました。10月に中間報告を行い、企業側と意見交換し、12月に最終報告会を実施しました。



マノーネ工場見学

Step 3

プロジェクトはコンペ形式で行われ、優れた提案は、同社での商品化が約束されています。最終報告では、「キッチンワゴン」や「カラーボックスを利用した収納」等ユニークなアイデアが提案されました。これらの提案は、今後、同社にて商品化に向けて検討が進められます。



最終報告会にて

Topics

本プロジェクトは自由参加のプロジェクトのため、参加人数は多くありませんでしたが、「自分のアイデアが商品化されるかもしれない」という期待感もあり、学生からは、「家具設計のおもしろさを感じることができました」等、前向きな感想が聞かれました。

Data

- パートナー 株式会社マノーネ
- 担当教員 田中清章教授／佐藤万穂助手
(現代生活学部生活デザイン学科)
- 実施期間 2009年6月～2009年12月

Comments

本プロジェクトは、授業を通じた有志のプロジェクトとして実施したことと、コンペ形式で商品化を視野に入れた取り組みであるという点で、通常の連携事例とは性質が異なります。学生は、自由意志で参加しているため、全員、前向きに取り組んでいました。そのことが、企業にとって価値のあるアイデア提案に繋がったものと思われます。また、学生にとっても、企業という実社会の評価が得られることは得難い経験になりました。